



なぞって練習

源氏もやかましいところ
 には思つた。けれどこの
 貴公子も何かから起
 こる音とは知らないの
 である。大きなたま
 らぬ音響のする何かだ
 と思つていた。そのほか
 にもまだ多くの騒がし
 い雑音が聞こえた。白
 い麻布を打つ砧のかす
 かな音もあちこちにし
 た。空を行く雁の声
 もした。秋の悲哀が
 しみじみと感じられる。

■ 参考

※砧【きぬた】

※雁【かり】

(青空文庫のフリガナより)